

予測できない世界における子どものウェルビーイング（要約・日本語版）

ユニセフ・イノチェンティ研究所報告書「レポートカード 19」

資源に恵まれ、富める国で育ったからといって、幸せで健康な子ども時代を過ごせるとは限りません。新型コロナウイルス感染症の世界的大流行（パンデミック）が始まって以降、一部の経済的に豊かな国では、子どもの学力、精神的幸福度、身体的健康が著しく低下しています。このような憂慮すべき傾向は、子どもの将来の可能性とウェルビーイング（幸福度）全体を損なうおそれがあります。

ユニセフ（国連児童基金）・イノチェンティ研究所が発表した最新の報告書「レポートカード 19」（以下、RC19）は、3つの核心に迫る質問に答えています。

- 急速に変化し、しばしば予測のつかない世界状況の中、子どもたちはどのように過ごしてきたのでしょうか？
- 子どもの生活に影響を与える主な要因は何でしょうか？
- 子どものウェルビーイングを向上するために何ができるでしょうか？

豊かな国々はどのような状況にあるのか？

イノチェンティ研究所のレポートカードシリーズの各報告書では、子どものウェルビーイングに関する主要分野について、各国を相対的に比較した総合順位表を掲載しています。本報告書では、経済協力開発機構（OECD）および欧州連合（EU）の加盟43カ国の子ども、10代の子ども・若者の精神的幸福度、身体的健康、スキルについて順位付けをしています。

この一覧表は、さまざまな強みと弱みを示しています。上位に順位付けられた国々も含め、すべての国に改善の余地があります。

- 上位3カ国はオランダ、デンマーク、フランスで、これらの国々は精神的幸福度、身体的健康、スキルの3分野のそれぞれについても上位にあります。
- 下位8カ国はすべて、3つの分野のうちの少なくとも2分野で下位3分の1に位置します。
- ブルガリア、クロアチア、ハンガリー、ルーマニア、スロバキアは、精神的幸福度では上位に入っているものの、身体的健康では下位3分の1にあります。
- 日本、韓国、スロベニアはスキルの分野で上位3分の1に位置しますが、精神的幸福度については下位3分の1となっています。
- チェコとアイスランドは、身体的健康は上位にありますが、精神的幸福度とスキルについては下位にあります。

表1. 子どものウェルビーイングの総合順位表

総合順位	国名	精神的幸福度	身体的健康	スキル
1	オランダ	1	4	11
2	デンマーク	3	3	8
3	フランス	11	2	9
4	ポルトガル	2	10	22
5	アイルランド	24	11	1
6	スイス	13	7	6
7	スペイン	4	25	16
8	クロアチア	9	31	3
9	イタリア	8	16	23
10	スウェーデン	14	13	14
11	ハンガリー	6	30	13
12	オーストリア	16	20	7
13	スロベニア	28	18	2
14	日本	32	1	12
15	リトアニア	20	17	17
16	ルーマニア	5	32	26
17	フィンランド	21	23	18
18	チェコ	25	5	31
19	カナダ	23	24	21
20	スロバキア	12	29	27
21	英国	27	22	15
22	アイスランド	26	6	28
23	ラトビア	22	15	32
24	ギリシャ	7	27	35
25	ドイツ	18	14	34
26	マルタ	15	21	36
27	韓国	34	28	4
28	ブルガリア	10	34	33
29	ポーランド	30	19	30
30	エストニア	33	26	24
31	コスタリカ	17	36	39
32	ニュージーランド	36	35	25
33	コロンビア	29	39	38
34	メキシコ	19	41	41
35	トルコ	35	37	37
36	チリ	31	40	40
	オーストラリア	n/a	33	20
	ベルギー	n/a	8	5
	イスラエル	n/a	12	19
	ノルウェー	n/a	9	10
	米国	n/a	38	29

注：キプロスとルクセンブルクの2カ国は、入手可能なデータが不足していたため総合順位表に含められませんでした。これら2カ国は、入手可能なデータがある場合は、本報告書の他のパートに含まれています。これとは別に、オーストラリア、ベルギー、イスラエル、ノルウェーおよび米国は、生活満足度に関するデータが欠けているか、あっても比較可能でなかったことから、総合的な順位付けをすることはできませんでした。

危ぶまれる進歩

過去 25 年間に、OECD および EU の加盟国では子どものウェルビーイングが著しく向上しました。子どもの死亡率は着実に低下し、10 代の子ども・若者の自殺は全般的に減少し、学校の修了率は上昇しました。しかし、近年、子どものウェルビーイングの基礎的な分野における傾向は逆行の兆しを見せています。

今日の子どもたちは、感染症、紛争、異常気象などに特徴づけられる複雑な世界の中で育っています。子どもたちは急速なデジタル技術の進歩に直面し、人口動態の変化がもたらす脅威にさらされています。新型コロナウイルス感染症とそれに起因した学校閉鎖は、学習面で大きな損失をもたらしました。子どもたちの健康を脅かす新たなリスクも次々と顕在化しています。都市の大気汚染、環境中の合成物質やマイクロプラスチックは、放っておくと重大な害をもたらす可能性があります。子どもたちが遊ぶおもちゃ、身につける衣服、住む家にも有害物質が含まれています。また、これらの問題は貧しい国々に偏って影響を及ぼしていますが、世界で最も経済的に豊かな国々も無関係ではありません。

本報告書は、2020 年に発行されたレポートカード 16 が初めて分析した、子どものウェルビーイングの 6 つの指標（生活満足度、10 代の子ども・若者の自殺、子どもの死亡率、過体重、学力、社会的スキル）を比較しています。

それによると、OECD および EU の加盟 43 カ国全体において子どもの生活満足度は低下し、過体重や肥満が増加し、学校の成績も低下しています。このような国々では、子どものウェルビーイングの面でのせっかくの進歩が、地球規模の出来事やショックに対してますます脆弱になりつつあります。

表 2 は、2018 年から 2022 年にかけての、総合順位表に含まれる 6 つの指標の変化をまとめたものです。改善の評価は少なくとも 5% の割合で改善したことを探し、悪化の評価は、少なくとも 5% の割合で低下したことを示しています。

概要は以下のとおりです。

- 子どもの死亡率は高所得国における長期的な傾向を反映し、ほとんどの国で低下しています。
- 子どもの社会的スキルは、相対的におおむね横ばいか、場合によっては向上しています。
- 近年、10 代の子ども・若者の自殺率にはっきりとした傾向は認められません。増加、変化なし、減少の傾向は国によって異なります。
- 他の 3 つの指標（生活満足度、過体重、学力）は、多くの国で悪化し、改善が見られた国はほんの一握りです。後述するように、これらのマイナスの傾向は多くの国で顕著になっています。

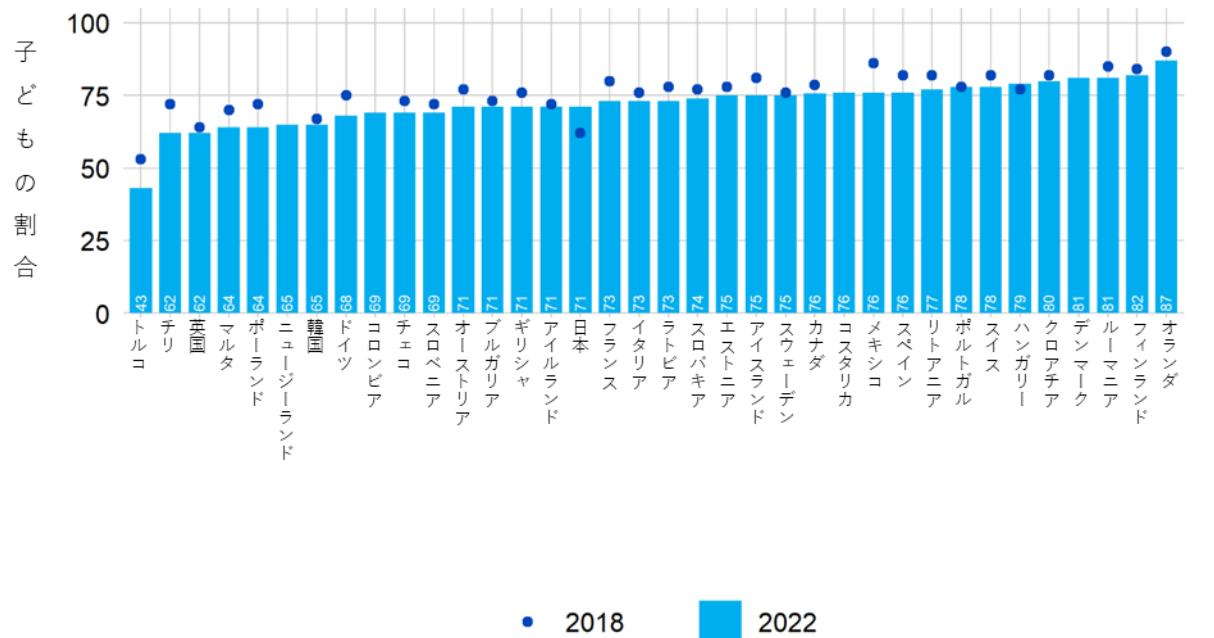
表 2：子どものウェルビーイングに関する 6 つの指標の変化（2018～2022 年）

		精神的幸福度		身体的健康		スキル	
	生活満足度	自殺率	死亡率	過体重	学力	社会的スキル	
改善	1	18	33	2	4	7	
変化なし	17	7	9	27	13	32	
悪化	14	17	1	14	21	1	
データなし	11	1	0	0	5	3	

生活満足度

2018 年から 2022 年にかけて、15 歳の子どもの生活満足度は大幅に低下しました。ほぼすべての国において、男女ともに低下が見られたものの、その度合いは女の子の方が顕著でした。同期間において子どもの生活満足度が大幅に上昇したのは日本だけでした。

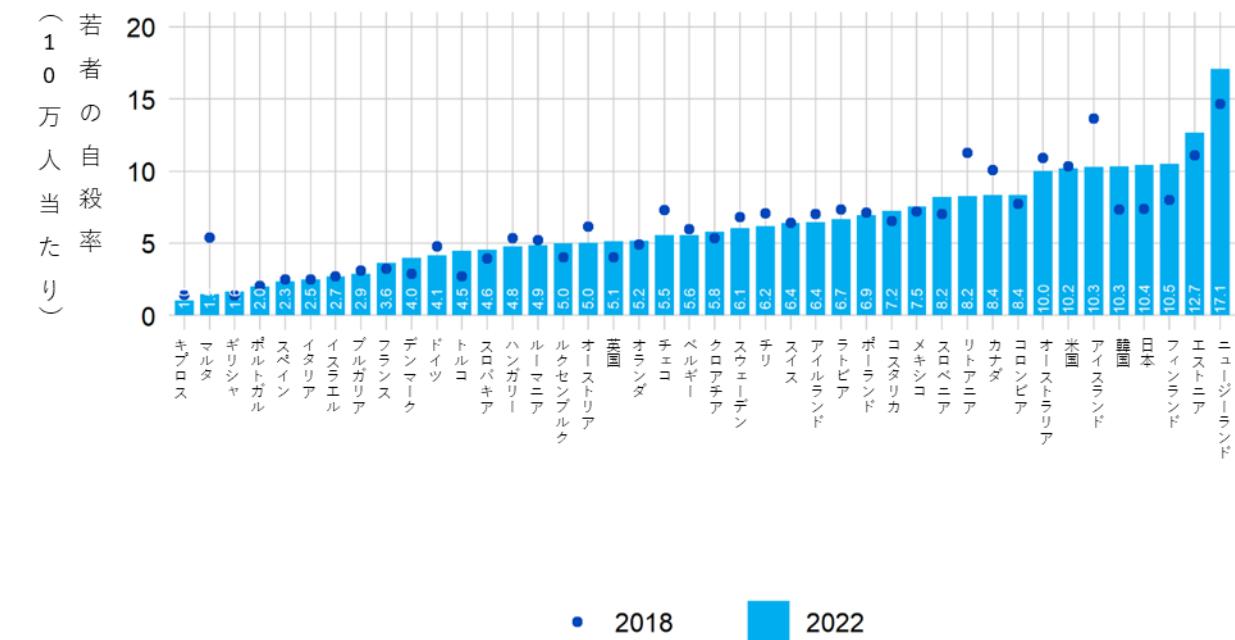
図 1. 生活満足度の高い 15 歳の子どもの割合の変化（2018 年～2022 年）



10 代の子ども・若者の自殺

2018 年から 2022 年にかけて、10 代の子ども・若者の自殺率は 18 カ国で低下しましたが、17 カ国で上昇しました。全体としては、当該期間の推移は横ばいでいた。この年齢層の自殺率は男性が女性をかなり上回っていますが、男女差は縮まりつつあります。

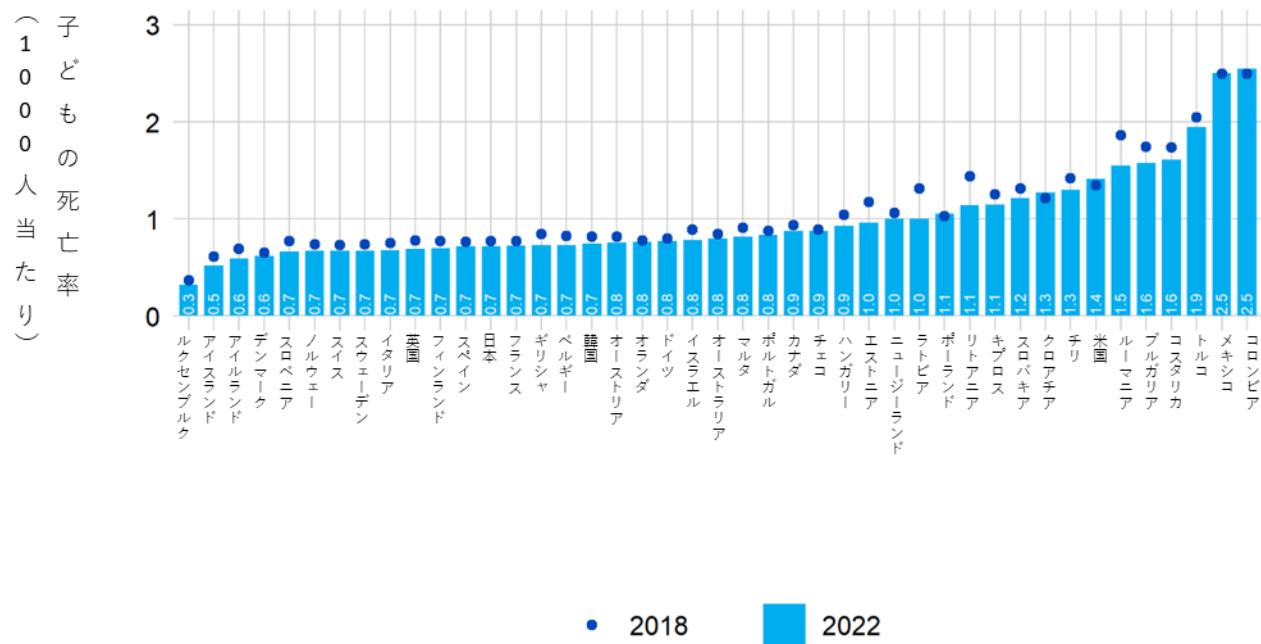
図 2. 15～19 歳の子ども・若者の自殺率の変化（2018 年から 2022 年までの 3 年平均）



子どもの死亡率

レポートカード対象国全体で平均すると、5歳の誕生日から15歳の誕生日を迎えるまでの10年間に死亡する子どもは1,000人に1人未満です。これまでの持続的な進展にもかかわらず、不利な状況にある子どもの死亡リスクは依然として高いままです。

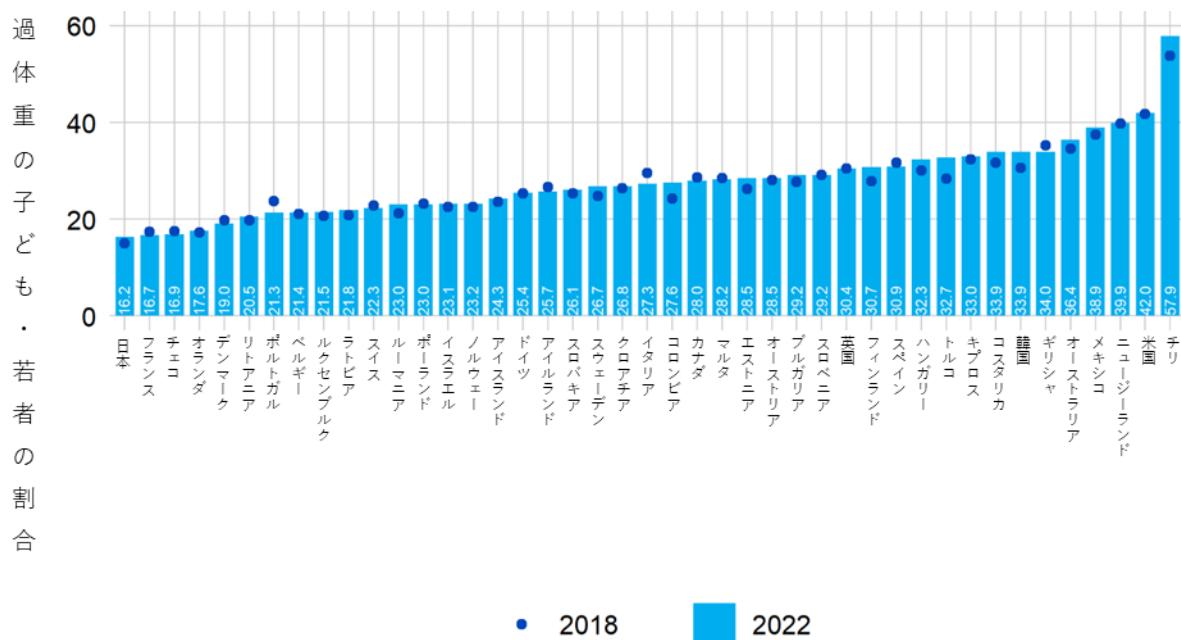
図3. 5~14歳の子どもの死亡率の変化（2018年～2022年）



子どもの過体重と肥満

ここ数十年、子どもの過体重の割合は一貫して増えており、1990年の約17%から、2022年には約28%に増加しました。この割合は、2018年から2022年にかけて、レポートカード19の対象国の3分の1で増え続け、顕著に改善したのはイタリアとポルトガルの2カ国だけです。

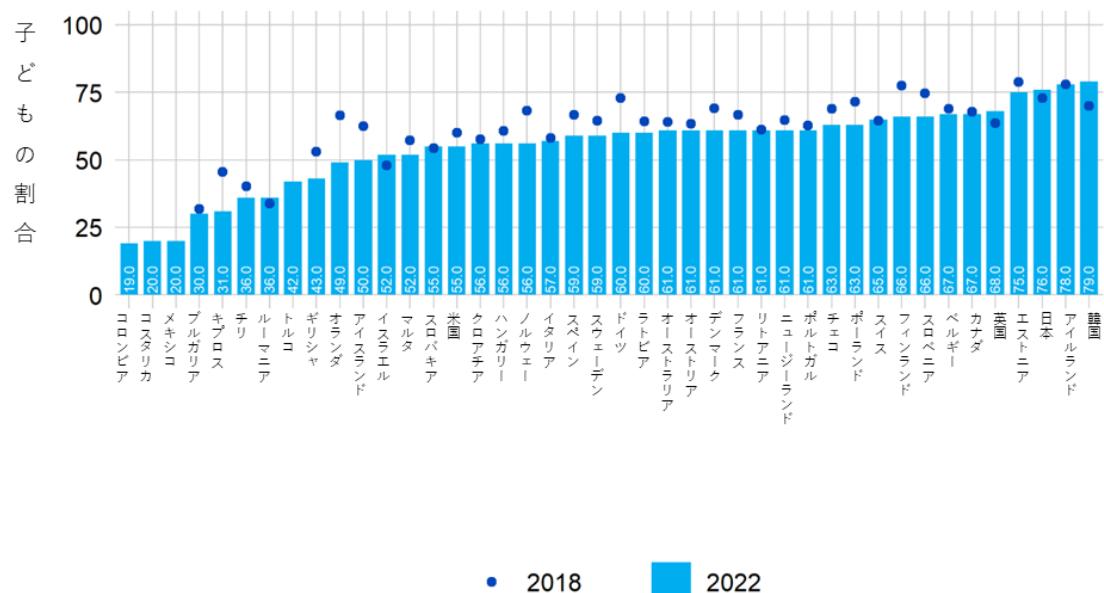
図4. 5~19歳の過体重の割合の変化（2018年～2022年）



学力

新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる学校閉鎖は、子どもの学力に多大な影響を及ぼしました。数学の得点は38カ国で平均12ポイント低下し、これは7ヶ月間分の学習損失に相当します。読解と数学の基礎的な学力を有する子どもの割合は、21カ国で5%以上減少し、顕著に増加したのは4カ国のみでした。42カ国で15歳の子どもの840万人以上が、読み書きと計算の十分な能力を身につけていないと評価されました。

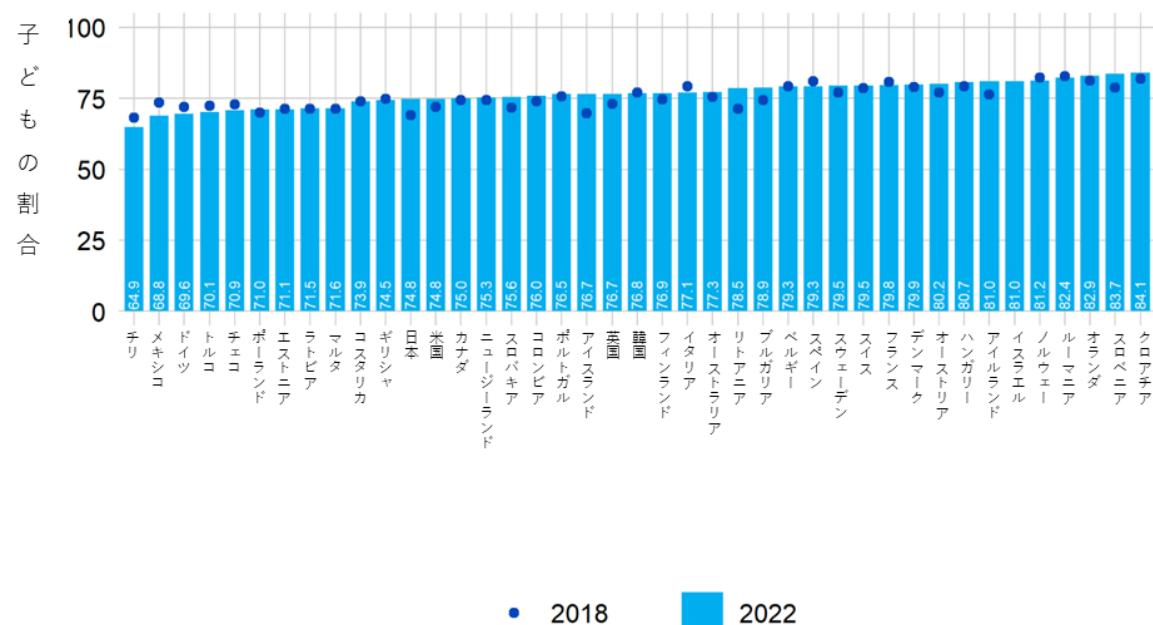
図5. 15歳の子どもの学力の変化（2018年～2022年）（読み書き・計算の基礎的習熟レベルに達している15歳の割合）



社会的スキル

社会的スキルは、2018年から2022年にかけて相対的变化はほとんど見られませんでした。学校閉鎖が社会的スキルに及ぼす潜在的な影響が懸念されていることを考えると、これは好ましい兆候です。

図6. 学校ですぐに友だちができると答えた15歳の子どもの割合の変化（2018年～2022年）



予測できない世界で子どものウェルビーイングを保つための解決策

政策的解決策としては、子ども時代全体を対象としたアプローチが必要であり、そのためには一般化されている考え方および政策や施策の優先順位の転換が必要です。子どものウェルビーイングのさらなる低下を防ぎ、軌道修正するために、以下の行動を提言します。

子どもの精神的幸福度の向上

子どもの精神的幸福度を高めるには、専門的な支援が必要です。親や養育者のメンタルヘルスおよび子育てスキルを高める「子育てプログラム」を活用しましょう。学校での社会的・情緒的学習を促進するとともに、学校や地域社会およびネット上の暴力、いじめ、差別を防ぎましょう。

子どもの身体的健康の向上

より健康的な食環境を整え、体を動かすことを奨励しましょう。不健康な食品の販売や宣伝を規制しましょう。これとは別に、子どもの健康は環境中の汚染物質によっても危険にさらされます。環境汚染を軽減するには、速やかな対応、監視、調査および政策的行動が必要です。

さまざまなスキルの育成支援

子どもたちが学習の遅れを取り戻せるようにするには、的を絞った行動が必要です。子どものウェルビーイングと安全にとって不可欠となりつつあるデジタルスキルを伸ばすためには、十分なリソースと学びやすい環境を整えることが必要です。

課題の関連性の認識

精神的幸福度、身体的健康、スキルの発達は、子どもたちが子ども時代を過ごす中で相互に関連しています。例えば、身体の健康状態が悪いと、社会から疎外され、孤立感や不安感を持つようになります。一方、ストレスやうつ病は、睡眠パターンや食生活にも悪影響を及ぼします。ある分野の課題は、他の分野の課題に対しプラスにもマイナスにも働きます。

不確かな将来への備えを

現在の世界的状況において、コロナのパンデミックを一過性の出来事とみなすべきではありません。将来、気候変動や紛争によって同様のインパクトが起きることは容易に予測されます。先見性を活かして先手を打ち、ショックが子どもたちのウェルビーイングに与える影響を緩和しましょう。

不平等に取り組む

本報告書は、ジェンダーおよび家庭の社会経済的背景によって、子どものウェルビーイングが異なることを指摘しています。いくつかのテーマに関するデータは個々の国にありますが、このような不平等に関する国際比較可能なデータはほとんどありません。次回のイノチェンティ・レポートカードでは、OECDとEUの加盟国の子どものウェルビーイングにおける不平等をより詳しく取り上げる予定です。

子どもや若者と共に取り組む

子どもは、自分たちの生活や将来に影響を与える決定に関与でき、またそれを望んでいます。子どもたちの経験を理解し、彼らの意見やアイデアに耳を傾け、彼らと協働することは、子どものウェルビーイングを向上させる解決策を見つけるために極めて重要なプロセスです。